

浅草寺病院だより

平成 27 年
【秋号】

平成 27 年 10 月 1 日発行
社会福祉法人浅草寺病院
東京都台東区浅草 2-30-17
☎ 03-3841-3330

理念

観音さまの大慈悲のみこころにそって、
思いやりの精神のもとにあたたかい医療を提供します。



ご挨拶

看護部長 市川ゆり子

浅草寺病院の看護部は、病院の理念である、「観音様の大慈悲にそって、思いやりのある精神をもとに、あたたかい医療を提供します」をモットーに、地域の皆様の病院として日々励んでおります。

浅草寺病院は 100 年の歴史があり、その歴史と共に浅草の街があり人があります。時代は変化しても、いつの時も地域と共に浅草寺病院はあります。浅草寺病院の看護師として、いつまでも地域の皆様に愛され親しんでいただける存在でありたいと願っております。理念に沿った医療や看護を実践していくために、看護部の人材育成は重要な課題です。専門職業人としての意識や誇り、そして患者様に対する看護の想いが大切であると考えます。看護部の教育システムは、新人からベテラン看護師までの段階別教育を実践しています。院内、院外の教育研修に参加し、誰もが『学ぶ』姿勢をもちつづけることが、専門職業人としての意識を育むことにつながります。学んだことを臨床の現場で活かしながら、いつでも患者様のニーズにお応えできることを心掛けています。わたしたちの目指す看護は、患者の視点で考えケアしていくことです。まだまだ至らず指摘を受ける場面もありますが、皆様のお声を糧に目指す看護を実践してまいります。いつまでも浅草寺病院が、地域の病院として親しんでいただけることを願い、私の言葉とさせていただきます。



第 46 回すこやか講座のご案内

下記の通りすこやか講座を開講致します。是非、この機会に講義を聴きにいらして下さい。

- 日 時：平成 27 年 10 月 17 日(土) 午後 1 時半～午後 3 時
場 所：浅草寺福祉会館(浅草寺病院そば)
講 師：整形外科部長 金子智則
テ マ：『ひざを鍛える～高齢化社会に向けての変形性膝関節症の話～』
参加費：無 料
参加人数：約 40 名 ※予定人数に達し次第、受付は終了させていただきます。



【お問い合わせ・お申し込み】 浅草寺病院 医療福祉相談・連携室 代表 TEL 03(3841)3330

65 歳以上の高齢者が人口の 1/4 を占めるようになり、急速に社会の高齢化が進んだことは社会的問題を引き起こしている。また浅草寺病院がある台東区は単独世帯の割合が他の地域より多いことが特徴として上げられる。

認知症の原因ですが、最も多いのはアルツハイマー型認知症であり、認知症の 6 割を占めている。認知症の症状も記憶障害、見当識障害といった中核症状と幻覚、被害妄想、攻撃性、暴力といった行動・心理症状(BPSD)がある。

アルツハイマー型認知症の BPSD はドネペジルを代表とするコリンエステラーゼ阻害薬、メマンチン、抑肝散などの漢方薬を使用して、症状を緩和することができるようになってきている。

またレヴィ小体型認知症は記憶障害、パーキンソニズム、幻視の 3 症状を主体とするが、あまり知られていない症状として繰り返す失神や抗精神薬に対する過敏性があり、かえって精神症状が悪化することがあるので専門医の診断や治療が非常に重要になってくる。血管性認知症や前頭側頭型認知症は、未だ有効な手立てがない状態である。

認知症者を介護するにあたって対応することが厄介なことは、物忘れからの意思疎通の困難さだけでなく、火の不始末、判子や銀行機関の暗証番号などのお金の管理、判断能力減退による誤った契約、振り込め詐欺などが挙げられる。また、交通事故に関しては全体では減少傾向にあるものの高齢者の交通事故は増加傾向にあり、交通事故死亡者に至っては約半数を占めている。徘徊による行方不明者は 1 万人に上る。このような事から認知症は社会の重要な部分となり、もはやマイノリティではなくなっている。認知症の治療のみならず、高齢者に対して『孤立にさせない』『常に見守ってあげる』などの対応がすべての世代に必要なのではないだろうか。

数の面白さ

文:医療情報管理室

診療情報管理士という仕事柄、私は様々な数(かず)を頻繁に扱います。その中の一つに患者さんの生年月日があります。よく早見表なんてものや、最近だと表計算ソフトの関数で変換してみたりなんてしますが、この変換を簡単に頭の中で計算する方法があるのです。ご存じの方も多いかもかもしれませんが、この方法は簡単で、2つの数字を覚えるだけ。それは“25”と“12”。

昭和生まれの場合は、和暦に“25”を足すと西暦になる。

平成生まれの場合は、和暦から“12”を引くと西暦になる。

(西暦から和暦にする場合は足し算・引き算を逆にするだけ)

例えば、昭和40年に25を足すと1965年！などと一発で出てきます。

世間話の中で、

「お生まれはいつですか？」

「昭和 12 年です」

「ほ～、1937 年ですか」

なんてさらっと言えるとちょっと粋かもしれませんね。

